

分野:器官系統病態学

主科目 副科目	肝胆膵・移植外科学 Hepato-biliary-pancreatic surgery and transplantation	DM_1426	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	--	---------	----	------	------	-----------------

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他	
板橋	◎佐野 圭二 三澤 健之	和田 慶太			澁谷 誠 豊田 真之	(助手) (非常勤講師)
-						
-						

	肝胆膵・移植外科学Ⅰ (1年次)				肝胆膵・移植外科学Ⅱ (2年次)				肝胆膵・移植外科学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概要	外科医としての幅広い知識、技術を修得する。				外科医としての幅広い知識、技術修得のみならず、さらに高次である肝胆膵外科診断学・治療学、病理学的診断、周術期管理を集中的に学ぶ。				臨床研究の役割の理解とプロトコール作成、臨床データベースの意義と管理、その解析、疾患の本態解明および診断ならびに治療に関して、臨床的、病理学的、分子生物学的研究を行える能力を身につける。			
到達目標	I. 術前診断と処置 1. 腹部超音波検査の習熟 2. 放射線断層画像(CT、MRI他)の意味・特性の理解とその読影 3. 術前検査の総合的評価 II. 外科基本手術実施 1. 救急外来での縫合 2. 外科専門医に必要な一般外科手術の実施(40例以上) 3. 専門外科手術の受持ち(100例以上) III. 一般外科術後管理 1. 術後の合併症対策				I. 術前診断と処置 1. エビデンスに基づく治療方針の立案 2. 術前プレゼンテーション 3. インフォームドコンセントの取得 II. 基本手術実施と外科専門医取得 1. な一般外科手術の実施(40例以上) 2. 専門外科手術の受持ち(150例以上) III. 一般外科術後管理 1. 術後栄養管理の理解と実行 2. 悪性腫瘍に対する集学的治療(化学療法)				I. 癌に対する非切除療法 1. 非切除療法(化学療法、放射線療法など)の理解と実践 2. 癌終末期医療(緩和ケア)の実行 II. 肝胆膵外科の特殊技能の習得 1. 胆膵系内視鏡検査の施行・習熟 2. 超音波ガイド経皮的処置の習熟 3. 術中超音波検査の施行 4. 腹腔鏡下胆嚢摘出術の習熟 5. 開腹肝切除・膵切除の施行 III. 基礎研究あるいは臨床研究 1. 臨床データベースの意義の理解			
事前事後学修	「Knack & Pitfalls 肝臓外科の要点と盲点(第2版)」幕内雅敏編(文光堂) 「Knack & Pitfalls 胆道外科の要点と盲点(第2版)」二村雄次編(文光堂) 「Knack & Pitfalls 膵脾外科の要点と盲点(第2版)」木村理編(文光堂) 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				「Knack & Pitfalls 肝臓外科の要点と盲点(第2版)」幕内雅敏編(文光堂) 「Knack & Pitfalls 胆道外科の要点と盲点(第2版)」二村雄次編(文光堂) 「Knack & Pitfalls 膵脾外科の要点と盲点(第2版)」木村理編(文光堂) 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				「Knack & Pitfalls 肝臓外科の要点と盲点(第2版)」幕内雅敏編(文光堂) 「Knack & Pitfalls 胆道外科の要点と盲点(第2版)」二村雄次編(文光堂) 「Knack & Pitfalls 膵脾外科の要点と盲点(第2版)」木村理編(文光堂) 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。			
評価方法	術前診断につきカンファレンスで発表させ評価(25%) 術者としての技量を指導的助手が評価(50%) 術前診断につきカンファレンスで発表させ評価(25%)				切除適応患者の治療方針につきカンファレンスで発表させ評価(25%) 術者としての技量を指導的助手が評価(50%) 術前治療方針につきカンファレンスで発表させ評価(25%)				治療方針につきカンファレンスで発表させ評価(25%) 術者としての技量を指導的助手が評価(50%) 臨床研究につきリサーチカンファレンスで発表させ評価(25%)			

■主な演習(講義・実習含む)

	肝胆膵・移植外科学Ⅰ (1年次)	肝胆膵・移植外科学Ⅱ (2年次)	肝胆膵・移植外科学Ⅲ (3年次)
板橋	火 曜日 18 : 00 ~ 20 : 00 内視鏡simulation	木 曜日 18 : 00 ~ 20 : 00 超音波検査講義	木 曜日 16 : 30 ~ 18 : 00 腫瘍治療学特論2
	月 曜日 9 : 30 ~ 16 : 00 手術	木 曜日 13 : 00 ~ 17 : 00 肝胆膵IVR	火 曜日 18 : 00 ~ 20 : 00 ドライラボ実習
	月 曜日 8 : 00 ~ 9 : 30 臨床カンファレンス	火 曜日 13 : 00 ~ 16 : 30 臨床症例検討会	月 曜日 18 : 30 ~ 19 : 30 肝胆膵がんサーボード
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
-	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :

教科書・参考書

- 「Knack & Pitfalls 肝臓外科の要点と盲点(第2版)」幕内雅敏編(文光堂)
「Knack & Pitfalls 胆道外科の要点と盲点(第2版)」二村雄次編(文光堂)
「Knack & Pitfalls 膵脾外科の要点と盲点(第2版)」木村理編(文光堂)

その他履修上の注意事項

肝胆膵外科領域における特徴は、高難度手術が多い点、術者を経験してもらえる手術に腹腔鏡手術が多い点、周術期管理で全身管理を学べる点などがあり、なかでも当科で特有な事項としては、それらの手術を術者として多く経験してもらえていることである。また研究や臨床を国内留学で研修するものもあり、研究に十分時間をとることが可能であることも含め、個人の自由度は高い。試験やレポート等に対し、講義中での解説等のフィードバックを行う。この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	外科・手技、上部消化管外科学(4か月)、下部消化管外科学(4か月)、乳腺腫瘍学(3か月)、呼吸器外科学(3か月)、心臓外科学(2か月)、小児外科学(2ヶ月)、麻酔科学(2ヶ月)を履修する。
	共通科目	消化器疾患特論、腫瘍治療学特論Ⅱ(必修)

関連する専門医資格

- ① 外科専門医(日本外科学会) <http://www.jssoc.or.jp/>
② 消化器外科専門医(日本消化器外科学会) <http://www.jsgs.or.jp/index.php>
③ 消化器病専門医(日本消化器病学会) <http://www.jsge.or.jp/>

キャリアパス(モデルコース)

